

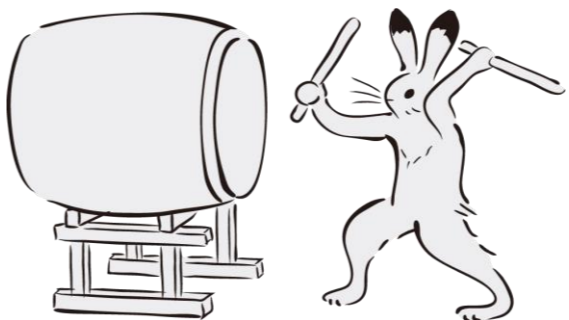
令和二年わんぱく寺子屋中止のご案内

例年八月上旬に開催してまいりましたわんぱく寺子屋ですが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、残念ではございますが中止といたします。

三月から五月にかけての一斉休校の煽りを受け、参加する子供たちの夏休みが例年通りの期間となるか定まっていないこと、食事や宿泊において三密を避けることが難しいこと等を総合的に鑑み、中止の判断を下しました。

学校行事や夏祭り等の中止が決まり、日蓮宗が管轄する夏休みこども修養道場も、その多くが開催を見合わせている状況です。

今後もしばらくの間は不自由な生活が続くと思われませんが、来年こそは元気いっぱいいな子供たちを迎えられることを、スタッフ一同願っております。



《お講・長榮堂再開のご連絡》

新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見合わせておりました、毎月二十一日の長榮堂、十三日のお講のお参りを再開いたします。

ご参加の皆様におかれましては、マスク着用等にご協力お願い申し上げます。

お講 午前十時より 於 浄光寺
長榮堂 午後七時より 於 長榮堂

《お盆棚経のご連絡》

本年も例年同様に檀家の皆様のご自宅にお伺いし、御仏壇にてご先祖様のご供養のお参りをいたします。

なお、山形県においては新型コロナウイルス感染症流行の第二波は確認されておりませんが、山形県外にお住まいの方や、ウイルスに不安をお持ちの方で本年のお参りを辞退される方は、お手数ですがお寺までその旨をご連絡いただきますようお願い申し上げます。

ひかり

第61号
(令和2年7月)
浄光寺寺報
山形市八日町 2-4-35
(023)622-6010

令和二年孟蘭盆施餓鬼法要のご案内

記

八月二日(日)

午前十時半

法話

午前十一時

施餓鬼法要

※お塔婆の申し込み・変更のある方は

お早めに寺までご連絡ください(一本 二千五百円)

孟蘭盆施餓鬼法要を右記日程にて執り行う旨をご案内いたします。本年の春彼岸会法要は僧侶のみので厳修しましたが、この度は新型コロナウイルス対策を講じた上で、檀信徒の皆さまをお招きして一緒にご先祖様のご供養をする形式といたします。下記に法要へのご参加おける、お願いや連絡事項を記載いたしますので、ご一読のほどよろしくお願いいたします。

《法要開催にあたってのお願いとご連絡》

・マスクの着用にご協力をお願いいたします

※法要中もなるべく着用をお願いいたします

・玄関等に消毒液を用意しますので、

手指の消毒にご協力お願いいたします

・廊下の扉や窓を開放いたします

・座席の間隔を広くとりますので、

できるだけ人との距離をお取りください

・大広間での昼食の提供は中止とします

・通路に冷たい飲み物と紙コップを

準備いたしますのでご自由にお飲みください

・体調の優れない方のご参加はご遠慮ください

梅雨の時期を迎え、蒸し暑い日が続いています。熱中症にも十分ご留意くださいますようお願い申し上げます。

その他に不安な点や質問・相談事がございますし、お気軽にお寺にお問い合わせてください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

来る三月十七日、春彼岸会法要を厳修いたしました。前号にてご案内の通り、本年の法要は住職と榮典上人の二名で執り行いました。世界全体が新型コロナウイルスの流行という未曾有の危機に直面するなか、檀信徒の皆様には法要出席の自粛にご協力いただきました。誠にありがとうございました。

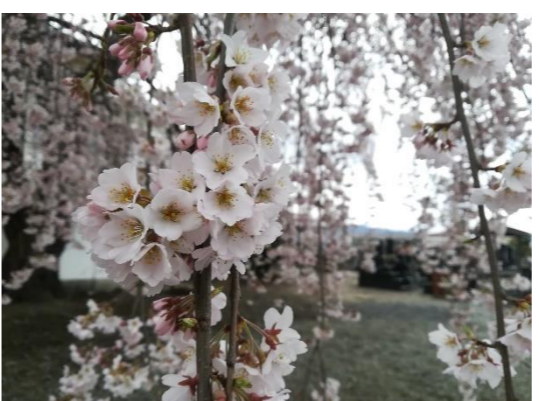
時が経つのは早いもので、一月頃から新型コロナウイルスのニュースを耳にするようになってから半年が経過します。その間、各分野において様々な対策や新しい取り組みがなされてきましたが、日蓮宗においてはオンライン唱題行や身延山久遠寺の大法要をライブ配信したりと、離れていても一緒に参加ができるような企画の実施がなされました。逆境の今だからこそ生まれた新たな取り組みに参加してみるのもよいかもしれませぬ。



浄光寺・玄妙寺合同の歴代上人法要を、当山第三十世一誠院日雄上人の祥月命日に合わせ、四月四日に開催いたしました。

本年は日雄上人の第二十三回忌に正當しておりましたので、県内寺院の御弟子の皆様をお招きし、天童妙法寺住職矢吹海慶僧正 御導師のもと厳肅裡に執り行われました。

近年稀にみる暖冬の影響か、本堂裏の桜は四月に入ると花を咲かせはじめ、法要当日は五分咲きの様子でした。来年までには友人・知人と一緒に花見ができるような情勢になることを願うばかりです。



《新型コロナウイルス禍の生き方とは》

今般の日蓮宗新聞に「コロナ禍の今、寄り添いの心はあるのか」と題し、中川宗務総長のお言葉が記載されておりました。

『感染者を「悪」とする報道、社会、人びとは許せない。(中略) 医療従事者の人たちは自らの感染リスクがあるなか、感染者のいのちを救おうと必死になっけてくれている。でも、周りの人たちは感染者を「悪者」にしている。実際、「あそこの家はコロナに罹った」ってヒソヒソ声を立てて迷惑顔してる。

(中略) 日蓮聖人は骸骨路に充ちてりという、疫病が蔓延する当時の鎌倉に自ら飛び込まれ、人々に安らぎをもたらしたいと民衆や幕府に対して訴えられた。(中略) 日蓮宗は数ある仏教教団の中でも祖師の名がついている教団。祖師の生き方が、私たちの指針だからです。苦しんでる人、悩んでる人に寄り添ってこられたのが日蓮聖人。その生き方をするのが、日蓮宗徒たる私たちの務めですよ。』

一部改変の上、抜粋させていただきました。数カ月前までは病気に罹ったら方がいれば、体調を思いやり、相手の気持ちに寄り添ってお見舞いしていたのが、ともすればコロナ禍の今となっては、感染者

に対して後ろ指を指すことが当然になってはいないでしょうか。このような情勢だからこそ、日蓮聖人のように、病気等で困っている人びとの心に寄り添うことが必要とされているのではないのでしょうか。

専門家の方の話によると、今後はウイルスの排除ではなく、共存していく世の中になるそうです。各人が自分のできる範囲で感染対策を行う生活が長く続くこととなります。ただし、軽症者や無症状患者が多いウイルスのため、いつ、だれが、どこで感染するかは誰にも分かりません。きちんと対策を取っている、大切な家族や友人が感染し、運悪く重症化してしまう可能性は、皆に等しくあるのです。自分がそのような立場に置かれたとき、周囲の人から励ましの言葉がかけられるような、思いやりのある世の中に変えていくためには、先ず自分からそうした行動を率先して行うことが大切です。日蓮聖人は数百年前の日本で、それを実践されていたと思います。

この未曾有の事態を乗り越えるためにも、私たち一人ひとりがお互いに思いやりの心を持ち、力を合せていきましょう。